

お客様 各位

## オランダ出張報告

令和5年12月13日

株式会社中村農園

中村光輝

私は11月20日から25日にかけて、オランダの球根生産圃場と輸出会社を訪問し、現地の動向と2023年産球根の課題把握と対策について調査して参りましたので、以下に取りまとめてご報告いたします。

### 【 雨期が4度ある乾燥した年 】

今年は1月から雨期と乾期を交互に繰り返す珍しい年となりました。春は1906年以来、観測史上最も湿った、雨の多い春となりました（図1. 参照）。その為、植え付けが長期間にわたり行うことができず、例年よりも約1か月遅れ、中には5月に植え付けられた品種もありました。一転、6月は異例の長さで乾燥し、5月中旬以降、1か月間、オランダ全域でほとんど雨が降りませんでした。長期間、雨がなかったため夏のオランダでは黄色の芝生、しおれた植物が散見し、盛んに灌漑する光景が広がりました。

気温は4月が月平均8.7℃（平年値9.8℃）と非常に寒く、いくつかの地域では▲5℃を記録しました。ナイトフロスト（夜霜）により2年栽培圃場では非常に大きな被害となり、ネイキッドスペース（24年産用リン片直挿し）の圃場に至っては完全に失われる圃場もありました。5月にも全てのゆり球根生産地域で冷え込み、5月上旬でも日中10℃までしか上がらず再び夜霜が発生しました。

秋になると10月下旬には嵐が発生し、数週間にもおよぶ雨により圃場が湿りすぎて収穫できず、ジャガイモ、テンサイ、ニンジン、小麦など多くの生産者にとって悲劇的なものとなりました。ゆり球根も例外ではなく全域で圃場に入ることができず収穫が滞り、私が訪問した週は時折晴れ間も見えましたが、粘土質で水はけが悪い圃場では収穫ができず、地域によってはLAの収穫を諦める生産者も出てきました。11月中旬はOT-ハイブリッドの収穫が始まる時期ですが、圃場毎に土の状態を見ながら行われています。今年は全てが計画通りに進まず、通常はテッポウユリ、LA・スカシ、OT、オリエンタルの順で収穫を進めていきますが、今年は品種を問わず圃場の状態が良い場所から優先的に行われています。また、収穫時期の混乱と遅れを取り戻そうと、地上部の枯れが不十分で収穫段階に至っていない品種も収穫され、早掘りによる腐りも発生しています。加えて、収穫前の長雨による水没や窒息、強引に収穫したことによる根切れや外リン片の損傷など、様々な問題が新たに発生しています。輸出会社により問題のある品種やロットは事前に止められておりますが、検査に引っかかるロットが例年にも増して多くなっています。

日本に輸入された際には詳細な検査・状態把握が非常に重要になる年で、弊社も入荷時の全ロット検査の際には例年にも増して慎重に行って参ります。